



はじめに

- 配属されて行ったのは、学校ではなく警察署
 - セネガル流の挨拶
 - インシャーラの国
 - 自分の存在意義について
- 「なぜ、ここにいるの？何のために来たの？」



1、セネガル共和国



- 面積: 197,161km² (日本の面積の2分の1)
- 首都: ダカール (西アフリカの玄関口)
- 人口: 1,220万人 (2007年、日本の人口の10分の1)
- 民族: ウォロフ44%、ブル23%、セレール15%他
- 言語: フランス語 (公用語)、ウォロフ語等各民族語
- 宗教: イスラム教95%、キリスト教5%、伝統的宗教
- 歴史: 1960年 フランスから独立



外務省ホームページより

2、要請内容

- 配属先: テイエス市教育委員会
(第2の都市、首都ダカールより東方向70km)
- 要請概要:

教員の知識や技術不足から情操教育が十分に行われていないため、教員に対して技術指導をする。



3、教育事情

- フランスの学校制度 母語ではなくフランス語による教育



- 就学率: 85% (2006) * 女子就学率: 48% (2005)
- 初等教育修了率: 58% (2006)
- 教科書保有率: 1人あたり1.9冊 (2005)



4、任国での活動

- 1) 活動目標: 小学校における情操教育の普及を目指す。

2) ねがい:

教員へのねがい 情操教育のよさや楽しさを理解し、指導への興味・関心を持つ。積極的に指導に関わり、知識や技術の獲得に励み、指導に対する自信を持つ。

子どもへのねがい 自分の思いや考えを大切にすると共に、それを表現することの楽しさを味わえる。また、同じように、友達の思いや考えも大切にできる。

- 3) 活動方針: セネガル人が情操教育 (図工、音楽、体育) のよさや必要性を理解し、セネガルの教員が主体となって教育活動に参加できるように、技術や知識を伝授したり、チームティーチング形式で指導を支援したりする。

4、任国での活動

4) 活動内容

- 市内の学校(4校)を回り、担任と共に指導
- 指導の成果を発表: 音楽会、作品掲示、運動会
- 教員への研修会の開催: 教員養成校で講習会
- 教材の開発: 教員のための指導書作り
- 放課後の活動: 選抜メンバーによる音楽クラブ
- 日本の小学校との国際交流:

神田小学校6年『セネガルの子どもたちと交流しよう』

担任と共に情操教育の指導をする



指導の成果を発表する



指導の成果を発表する



教員への研修会の開催



教材を開発する



放課後の活動



日本の小学校との国際交流

・・・セネガル人は、どうして黒いのですか？



5、活動の成果と課題

成果:

- ・セネガルを離れるのがさびしいと思えたことが一番の成果
- ・大きな成果はないが、やる気のある教員に出会え、いろいろな活動をしたり、教育について話したりできたこと

課題:

- ・隊員経験をどのようにいかしていくのか？資料をどのように教材化するのか？どんなふうに伝えていくのか？



おわりに

- ・日本人として
- ・教師として新たな思い
- ・子どもへの願いは万国共通



ジュルジュフ！ Merci beacoup! ありがとう！



バネヨ、インジャーラ

